

令和3年度 オリパラ教育推進事業「市民フォーラム」 開催報告

- 1.日時 令和3年11月13日（土） 14時～15時30分
- 2.会場 静岡文化芸術大学
- 3.主催 オリパラ教育浜松市内大学連携協議会(浜松市委託)
- 4.後援 静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、テレビ静岡、浜松ケーブルテレビ
- 5.プログラム
14:00～15:30 HEROS-夢を叶える原動力 パラアスリートトークショー
パラ水泳 鈴木孝幸選手(東京2020大会 5種目すべてメダル獲得)
車いすラグビー 池崎大輔選手(東京2020大会 銅メダル)
5人制サッカー 田中章仁選手(5位入賞)
- 6.参加人数 会場参加 144名、リモート参加45名(視聴人数)
[申込者数 会場 182名 リモート参加 83名]
○スタッフ 29名(各大学、浜松市教育委員会、スポーツ振興課)
○協力団体 橋本エンジニアリング
メディカルフィットネスクラブLEN
FC コレチーボ

7.結果

本事業は、浜松市もしくは静岡県にゆかりのあるパラリンピアンを招聘し、浜松市内の児童・生徒および一般の方々にも広く参加していただく講演会を行った。

本事業を通じて、パラスポーツに関心を持っていただき、障がいのあるなしだけでなく、共生社会への実現、そのきっかけとなることを期待した。また、2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとなることを目的とした。

東京2020大会を振り返り、車いすラグビーの池崎選手は「同じ人として障がいがあっても輝ける場所があり、世界を目指すことができる。今後もパラスポーツの熱を日本で広げたい」、また、ブラインドサッカー田中選手は、「ブラインドサッカーをやれる環境を残したい。いろいろな関わり方でパラスポーツを応援して欲しい」と語った。

さらに、競技を続ける原動力について聞くと、田中選手は「サッカーが好き」、池崎選手は「車いすラグビーはパートナー。世界一になること」、鈴木選手は「みなさんの応援がすべて」と答えた。

会場やリモート観覧者からも「自分を奮い立たせる言葉」や「大会前のリラックス方

法」など多くの質問があり、ユーモアあふれる3選手の応答に会場は終始笑いが絶えず、和やかなトークショーとなった。

終盤、コンタクトスポーツとしての車いすラグビーを来場者にも体感してもらうため、池崎選手が大会で使用している「ラグ車」で希望者と対戦した。ある小学生が池崎選手に果敢に立ち向かうと、会場内からは大きな拍手が贈られた。

最後に、主催者を代表し小柳会長が「一人一人の心の中にあるものがレガシーであり、それを育んでいくこともひとつ。境のない社会になることを願っている」と会を締めくくった。

8.成果

浜松市内の5大学(常葉大学、浜松学院大学、聖隷クリストファー大学、浜松医科大学、静岡文化芸術大学)が浜松市の委託を受け、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、スポーツへの理解を深め、障がいのある方への理解、異文化への理解を高める機会として実施した。

地域にゆかりの東京2020大会に出場した3選手に接することで、バラスポーツをより身近に感じていただくことができたと感じている。事前に募集したオリンピック・パラリンピックの絵画と作文展を同時に開催したことが、ターゲットの親子連れが多く参加してくれたことに繋がったと考える。

コロナ禍での開催のため、会場での観覧者を制限し、YouTube配信によるリモート観覧など、オンラインを活用しできるだけ多くの方が参加できるように工夫した。

会場の子どもたちからたくさんの質問があったことは、その関心の高さを表し、初期の目的は十分達成できたものと考えている。

9.報道

- | | |
|--------|------------|
| (1)新聞社 | 静岡新聞社・静岡放送 |
| (2)テレビ | 浜松ケーブルテレビ |

10.開催の様子

